

1. 主であるわたしは変わることがない。ヤコブの子らよ。あなたがたは、滅ぼし尽くされない。あなたがたの先祖の時代から、あなたがたは、わたしのおきてを離れ、それを守らなかった。わたしのところに帰れ。そうすれば、わたしもあなたがたのところに帰ろう。— 万軍の主は仰せられる。
— しかし、あなたがたは、『どのようにして、私たちは帰ろうか。』と言う。 (3:6-7)
 - a. ヤコブ(イスラエル)が存続しているのは、彼らの主に対する真実さによるのではなく、主の変わらぬご性質による。彼らが存続しているのは主が真実だからであり、今の私たちについても同じことが言える。
 - b. 神の賜物と約束は変わることがない。しかし神と私たちの関係は変わっていく。例えば神と私たちの距離は離れたり近くなったりする。神は祝福をくださったたり叱責されたりする。
 - c. もっと広い視野で見ると、神は人類に対してもその関係を変えられた。もはやユダヤ人が神の民でなくなったということではないが、新しい契約が定められたことにより人類はイエス・キリストを通して神との関係を持つようになった。律法的なレベルから関係的なレベルに変わったのである。

2. 人は神のものを盗むことができようか。ところが、あなたがたはわたしのものを盗んでいる。しかも、あなたがたは言う。『どのようにして、私たちはあなたのを盗んだのでしょうか。』それは、十分の一と奉納物によってである。あなたがたはのろいを受けている。あなたがたは、わたしのものを盗んでいる。この民全体が盗んでいる。 (3:8-9)
 - a. この箇所は旧約聖書から来ているので、古い契約の内容である。ただし古い契約だからと言って今の私たちの生活に適用できる重要なポイントがない、ということではない。
 - b. これはマラキ書に書いてあることすべてを人生に適用してはいけない、という意味である。それは無効になった契約から都合の良い部分だけを当てはめて、都合の悪い部分は無効だから、とっているようなものである。古い契約から好きな部分だけをかいつまむことはできないが、その中から私たち自身、また神について多くを学ぶことができる。
 - c. ここでは神の民が捧げものの中から盗みをしていたことが記されている。旧約聖書では神への捧げもの(穀物、家畜、動物、お金)がこと細かく決められており、その見返りに神はその民を祝福し必要なものを与えてくださった。人々は十分の一を聖別することで安心していたが、神はこれを「盗み」だとおっしゃった。これは今でも起こりうるだろうか? どのようなケースが考えられるだろうか?

3. 十分の一をことごとく、宝物倉に携えて来て、わたしの家の食物とせよ。こうしてわたしをためしてみよ。— 万軍の主は仰せられる。— わたしがあなたがたのために、天の窓を開き、あふれるばかりの祝福をあなたがたにそそぐかどうかをためしてみよ。 (3:10)
 - a. 神のものを盗んでいる人たちに対して神が出した指示は、すべてを捧げ神を試してみよ、ということであった。新約の言い方をすれば信仰に踏み出す、ということである。祝福を受ける前に、まずは捧げるべきものを捧げよ、ということである。私たちが信仰に踏み出す時、神は天の窓を開いてくださる。
 - b. 今の時代の私たちにはどうするように神はおっしゃっているだろうか? 捧げることについては、2 コリント 9:7に「心で決めたとおりにしなさい」と書かれている。私たちの捧げものは聖霊によって示されたものでなければならない。
 - c. 新約聖書を信じる者として、私たちの期待は「これを捧げれば神が幾倍にもして金銭的に恵んでくださるだろう」というものであってはならない。むしろ私たちの目はこの世の富ではなくまことの富にフォーカスすべきである(ルカ 16:11)。